



北村透谷
1868
1904

自由民権運動に傾倒していたときに石炭業家(現・町田ぼたん園)で出会った美女高野と大恋愛の末に結婚。後にキリスト教を信仰し受洗。代表作は詩集『蓬菜曲』。殉愛を述べた『巖谷詩家と女性』など、25歳で自死。



『蓬菜曲』 横濱書

江戸時代の女流俳人・五十嵐浜藻をはじめ、多くの詩歌人が町田と縁を結んでいる。「文学界」を創刊した島崎藤村ら明治時代の文学者に影響を与えた詩人・思想家の北村透谷、透谷の思想に感化された相原生まれの詩人・八木重吉、重吉の詩に感銘を受けた作家の宮川哲夫も一時期を町田で過ごしている。戦後、鶴川に居を移した俳人・石川桂郎は、村人との交流を随筆『残照』に記し、町田ペン会の会(現・東京町田ペンクラブ)の初代会長で詩人・評論家の野田宇太郎は、町田の地域文化の発展に尽力した。北原白秋の門下である詩人・萩田義雄、白秋が主宰した多摩短歌会に参加した歌人の若林牧春や下村照路のほか、様々な詩人、俳人、歌人が、この地で作品を生み出した。

01 町田ゆかりの俳人・詩歌人



江戸時代の女流俳人・五十嵐浜藻をはじめ、多くの詩歌人が町田と縁を結んでいる。「文学界」を創刊した島崎藤村ら明治時代の文学者に影響を与えた詩人・思想家の北村透谷、透谷の思想に感化された相原生まれの詩人・八木重吉、重吉の詩に感銘を受けた作家の宮川哲夫も一時期を町田で過ごしている。戦後、鶴川に居を移した俳人・石川桂郎は、村人との交流を随筆『残照』に記し、町田ペン会の会(現・東京町田ペンクラブ)の初代会長で詩人・評論家の野田宇太郎は、町田の地域文化の発展に尽力した。北原白秋の門下である詩人・萩田義雄、白秋が主宰した多摩短歌会に参加した歌人の若林牧春や下村照路のほか、様々な詩人、俳人、歌人が、この地で作品を生み出した。



八木重吉
1868
1927

南多摩郡明村(現・町田市相模町)生。敬虔なクリスチャンで、キリストへの信仰や家族への思いを綴った美しい詩に多くのファンを持つ。詩集『秋の暁』で20歳でデビュー。生前に出版した詩集は『秋の暁』のみ。死後『真しき信仰』『八木重吉詩集』が発行された。相模町の生家に記念館がある。



島崎藤村多摩郡大村(現・町田市南大谷)生。江戸の幕府加賀の子代と家され幼少より小僧・茶や東国遊覧の経験があった。文・徳文と共に筆を揮った詩人に『八木重吉詩集』の発行。『八木重吉詩集』は『秋の暁』ことばらんどで『八木重吉詩集』を刊行している。



『八木重吉詩集』 1910年発行/島山書局



五十嵐浜藻
1772
1848

02 遠藤周作とことばらんど

遠藤周作は、1955年、「白い人」で芥川賞受賞。日本人のキリスト教受容問題を主題にした多くの作品がある。主著に「海と毒薬」「沈黙」「深い河」など。1963年に玉川学園に転居、自宅を「真実庵」と称し軽妙なエッセイを含む作品を次々と執筆した。

町田市民文学館ことばらんどは、遺族から遺品や蔵書を寄贈され、2006年に開館した。

- 1. 様々な企画展が開催される町田市民文学館ことばらんど 2. 遺品の机やセンターズ、原稿などは企画展開催時に展示される 3. 2017年1月から公開された映画「沈黙-サイレンス-」。1971年に国内で映画化されている



遠藤周作
1905
1995



『沈黙』 新潮社

LITERARY GIANTS

町田市民文学館ことばらんど 町田市町田4-18-17 042-739-3420 9:00~22:00(展示室・資料閲覧室の利用は10:00~17:00) 月曜(祝日の場合は閉館)、第2木曜(祝日の場合は次の平日)休館



町田の文学

特集 1



美しい言葉の数々と文学が息づくまち、町田。

この地で過ごした作家たちと彼らが綴った珠玉作品のほんの一部をご紹介します

白河正子の書斎 (現・島・旧白河邸 武蔵野)